

私と超音波検査

森秀明

杏林大学医学部第3内科



〔略歴〕

昭和56年 杏林大学医学部卒業
昭和61年 同大学大学院医学研究科(内科学)卒業
昭和56年 杏林大学医学部第3内科入局
昭和58年 茅ヶ崎市立病院消化器科
昭和59年 朝日生命成人病研究所消化器科
昭和60年 杏林大学医学部第3内科
昭和62年 杏林大学医学部第3内科助手
平成 7年 杏林大学医学部第3内科講師
平成15年 杏林大学医学部第3内科助教授
平成19年 杏林大学医学部第3内科准教授

今や私のライフワークとなった腹部超音波診断。その腹部超音波診断と私との関わりを振り返ってみると杏林大学第3内科に入局し、1年を過ぎた頃に遡ります。当時、大学院に進み、臨床研修と基礎研究を共に行っていく事になった私は、まだ臨床研修を始めてから日も浅く、研修がおろそかになってしまい両立できないのでは、と心配していました。そのような折、先輩の医師から大学院に在籍しながら臨床を続けるために、超音波検査を習得してはと勧められました。さっそく超音波検査室に出入りするようになったのですが、はじめの頃は先輩の医師やベテランの技師の方が検査されているのを見学していただけで、本格的に超音波検査に携わるようになったのは、初めて出張した神奈川県にある市立病院の消化器科に勤務するようになってからでした。しかし当時この病院の超音波検査室に置かれていた装置はかなり古かったため、少しでもよい画像を得ようと産婦人科の外来に置かれていたその病院で最も新しい超音波診断装置で内科の入院患者さんも検査させて頂きました。とはいえ、男性の患者さんが多かったため、産婦人科外来終了後、夕方から病棟の患者さんに産婦人科の外来まで来ていただき、検査を行う日々でした。またその病院には超音波検査の指導医がおられなかったため、普段はテキストを片手に独学で腹部超音波検査を習得しました。私が独学で超音波検査を学んでいく上で大変参考になったのは、出張に出る前に2ヶ月間ローテートした放射線科で消化管X線撮影の権威であった主任教授から画像診断の撮影技術と読影の厳しさをご指導いただいたことでした。なかでも役立ったのは上部消化管X線撮影を学ぶために内視鏡検査の所見や手術所見を比較して読影技術を習得することを勧められたことで、腹部超音波診断を学ぶに際し可能な限り超音波検査の画像とCT検査の画像を対比させて勉強しました。また手術症例では同様に手術所見を対比させて検討しました。さらに週1回の研修日には大学に戻り、不明な点を先輩の医師やベテランの技師の方から教えていただきました。

その後出張を終えて大学に復帰してからも、腹部超音波診断を専門に研鑽をつみ、十数年が経過した頃。頭の中におぼろげながら腹部超音波診断学の概念がまとまってきた気がしました。その様な折、私が小学生の時に、医師であった祖父がライフワークにしていた「慢性疾患に対する温泉の効能の研究」を自費出版したことが思い出され、できることなら私も自分なりに習得した超音波診断学を1冊の書物としてまとめたいと考えるようになりました。たまたま、以前より存じ上げていた出版社の責任者の方にご相談しましたところ、ご賛同頂き、出版の運びとなりました。超音波テキストを製作するにあたって、多くの超音波テキストや論文を読みなおしました。その数は超音波テキストが10冊以上、論文は国内外をあわせ400編以上に及んだと記憶しています。また執筆に際しては、独学で腹部超音波検査を学び始めた頃に疑問に思った点や理解しづらかった点を思い出して、わかりやすく記載するように努力しました。夜が白む頃からの執筆の日々が続き、初めての超音波診断のテキストを30代の終わりに出版する事ができました。この時にまとめた知識により改めて自分自身の中で「超音波診断学」の概念が整理できた気がします。その後も今日に至るまでに数冊の超音波テキスト、ビデオ、CD-Rなどを世に出してきましたが、現在も超音波診断に対する熱き思いは変わらず、週3

日は自らプローブを握っております。

最近では超音波診断装置の進歩も著しく、初学者でもあまり苦勞せずに良好な画像を得ることができるようになってきました。その結果、経験の浅い検者が片手間に超音波検査を行い、病変を見落とし、その後、CTやMRIなどの検査で異常所見が見つかることも少なくないのが現状です。また一方では「医師の超音波離れ」も憂慮すべき問題です。ぜひ一人でも多くの医師や技師が超音波検査の魅力に気づいていただければ幸いです。

最後に腹部超音波検査を通して日本超音波医学会と関わり合いを持たせていただくことができたことに感謝しております。現在までに保険委員会、専門医制度委員会、検査士制度委員会、用語・診断基準委員会、倫理委員会、関東甲信越地方会運営委員会などの委員会活動を通して、私の専門である消化器のみならず多くの理工学系の先生方やその他の各領域の先生方、技師の方々と知り合うことができました。さらに平成21年11月には関東甲信越地方会第21回学術集会を開催させていただくことができました。私にとってこれらのことは何物にも変えられない貴重な体験と財産になっております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。